

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771700907		
法人名	株式会社旭看護婦家政婦紹介所		
事業所名	旭グループホーム		
所在地	三豊市高瀬町上高瀬町5388番地262		
自己評価作成日	平成29年10月10日	評価結果市町受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>年毎に地域交流の場としての実績が上がって来ている。地域の方々からいろいろな情報を提供して下さったり、介護の相談の場としても活用して頂ける様になって来た。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成29年11月23日

<p>事業所の玄関を入ると猫が迎え入れてくれ、癒される。1ユニット9名の小規模ならではの家庭的な雰囲気のもと、利用者・職員・猫が家族のような関係を築いている。職員の離職はベテランが多い。また、地域の医療機関との連携や看護職員が配置されており、看取りの経験がある。10年以上かけて、地域との関係づくりに腐心してきた現在、大正琴をはじめ、多様なボランティアの協力が得られ、行政とも緊密な協力関係を築いており、年に1度の「ふれあい祭り」には、地域住民をはじめたくさんの来賓が訪れる。また、当事業所は「食」を重視しており、質・量ともに充実した食事を提供している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全員で協議し考えた理念を復唱し、意識統一を図り仕事の実践につなげている。	職員で意見を出し合って作った独自の理念を、毎朝の申し送り後に唱和している。また、職員会や日常の業務の中で随時、管理者から周知している。利用者を否定せずにその人の意思を尊重し、家族や地域の方が気軽に出入りできるような雰囲気づくりを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の行事への参加、寄付金協力等交流している。	事業所開所以来、地域との関係づくりに努めている。現在、大正琴やヴィオラ、習字等、地域の多様なボランティアが定期的に訪問してくれたり、市や地区の行事などに積極的に参加するなど、交流を図っている。年に1度のふれあい祭りには地域の方が多数参加される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	“ふれあいまつり”開催する事で地域の交流といやしの場、情報交換の役割を果たしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当方の動向の現況報告をし、それについての意見を頂きサービス向上の糧にしている。	2か月に1回、民生委員や地域の代表、家族などが参加し、意見交換を行っている。今後は、警察などにも案内し、多様なメンバーで会議の充実を図る計画がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当方担当の地域包括の方を介し市とは協力体制密であるし、直接市へ伺い意見交換をしている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加することに加え、疑問点などがあつた場合は直接、役場へ出向いており、市と緊密な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りに徹し普通に過ごせる配慮をしている。	月に1度の職員会で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中、玄関は施錠しておらず、外に出ていこうとする利用者がいても、制止せずに寄り添うよう心がけている。本人のリスクについて、その都度、家族と相談しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員がゆとりを持てる人員配置し、そのゆとりが虐待へのいらだちを生じさせないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護利用の入居者の方がいたので学んだり、当時の担当の司法書士さんに現在の情報を得るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明と質問への回答を含め、ゆつくりと話し合いの時間をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置をしている。家族会や来訪時の、ご家族との対話の中に、接点を大切に聞き取りしている。	家族の面会時にこまめにコミュニケーションをとることで、信頼関係の構築に努めており、運営に対し意見を言いやすい雰囲気であることがうかがえる。また、家族も運営推進会議に参加しており、そこでも意見を表せることができる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の時に検討し合い、家族とたえず語り合い(訪問時)を有効にしている。	月に1度の職員会で、利用者の処遇について、活発に意見を交換している。また、管理者は普段から職員の意見や悩み等、しっかりと耳を傾けるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、慰労会、自由な休暇取得を実践し、ゆとりを持てるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	健康診断の実施、休み時間十分にとる。また研修案内等を回覧し、希望者等の参加や必要な場合には参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は親密に行えている(まつり等への参加、招待)。三豊介護サービス事業者協議会への参加により取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一番に対話に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係は常に要望の聞き取りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いにより見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	外部からみてさながら一つの大家族のように評価されている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との対話には時間をかけ現状の報告を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、かつての近隣者の訪問が多く、心良く受け入れ共に語り合っている。	家族はもちろん、友人・知人等の来訪者が気軽に来れるように努めている。また、ショッピングセンターに買い物に行ったり、地域の行事に参加するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲介に配慮している。(スタッフの連携により)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様とは親しく10年来来訪されるご家族様もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちの聞き取りに配慮し対応は細かくしている。	利用者との対話を大切にしており、希望や思いを把握し、ケアに活かしている。利用者と一緒に踊り、一緒に歌うなど、日々の生活を共に過ごして心を開いてもらうことで信頼関係を築いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去に通過した病院や施設とは情報交換を密にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当スタッフが職員会議において情報を周知し、全体で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議又は適宜スタッフ会議を開き検討している。	職員会等で各職員の意見を聴くとともに、家族の意向も踏まえて原案を作成し、担当者会議で検討している。計画は3か月に1度、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を読み上げながら毎日の情報を各スタッフが共有出来るよう申し送り時に意見交換する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ベテランスタッフばかりなので良い取り組みが出来ている。ニーズへの対応は早い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の友人各人の現況情報を提供に来訪されている。習字の講師も地域ボランティアである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域に密着した病院との連携が密なのでうまくいっている。緊急対応にもTELで対応して頂ける。	病院との連携が緊密であり、定期受診に加え、緊急時はいつでも連絡が取れる体制になっている。受診の支援は職員が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	相談から対応はスムーズに行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは連携が良いので日々こちらからの情報も医療機関に細かく伝達しているので即対応して下さる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、ホームでいいと望まれるご家族が多く、担当医と連携し説明等を丁寧にしながら取り組んでいる。	入居時に看取りについて説明するとともに、状態の変化に応じて、その都度、家族に説明している。担当医との連携が緊密であることに加え、看護職員が配置され、看取りの経験が蓄積されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急訓練は三豊観音寺消防署の指導員(救急救命士)を迎え、実践し把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルにそって災害訓練を行っている。	年に2回、消防訓練を実施している。うち1回は消防署の立ち合いがあり、実施後に改善点などの指導を受けている。また、非常時の水や食料などを備えている。	引き続き、夜間の火災を想定して、非常時にスムーズに避難誘導、応援要請ができるよう訓練を行うとともに、地震や台風時の土砂災害等、さまざまな災害について危機管理に対する意識を高めることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に各人の心の声を聞き取るよう心がけている。声かけは言葉にお互いが気をつけている。	利用者を人生の先輩として敬うとともに、不適切な声かけ等は職員相互で注意をし合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の表出は遠慮なく出来ている。むしろ職員の方が可哀想である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望通り過ごせるよう、聞き取りに配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在の流行を取り入れるよう持っているもの、こちらからプレゼントしたものを利用して支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況が現在は可能な人はいない(準備、片付け)。食事形態は本人の希望を聞いて実施している。	その日の献立は、食材の在庫を踏まえて、職員で話し合っ決めている。食事をとても重視しており、質・量ともにしっかりと味わえるよう心がけている。利用者の能力に応じて、野菜の皮むき等の下ごしらえを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	即対応出来るよう記録した状況に応じ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔体操→食事→口腔ケアは良好である。歯科医も週1回は来診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助によって自立支援を工夫している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、可能な限り、トイレで排泄できるよう支援している。各居室にトイレが備えられており、プライバシーが確保されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のリズムを記録により配慮、誘導介助する。食事材料の形態に工夫		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来ていない(出来ない)。	2日に1度は入浴できるよう支援している。便汚染時等はその都度対処している。入浴は一人ずつ、皮膚の観察やコミュニケーションをとりながら行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、気分に合わせて本人の意志に沿う工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルを確認し熟知しておく。症状は記録で各人が確認しておく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の掃除、皮拭き(豆やイタドリ)おやつ の楽しみを大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の支援もあり、時候、天候さえよければドライブ(各季節を楽しむ)花見等を実施	事業所周辺の散歩や地域の催し物への参加、カラオケ等、日常的に外出の機会を確保するとともに、花見や初詣など、ドライブに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	他者とのトラブルのリスクがあるため、施設で立て替えて、買い物等行なう様になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、家族・友人・親類への電話は仲介支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感への配慮、環境整備には配慮している。各人一日の大半をリビングで過ごされているのを見受けるに、居心地が良いのであろうと察せられる。	玄関を入ると猫が迎え入れてくれる。ホールや廊下等の共用の場所には、習字や利用者のイラストなどがふんだんに飾られ、季節感や生活感を感じることができる。屋内は明るく、温かい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関横にソファやベンチを設置し、一人、又は仲の良い人とそして、家族と過ごせる場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着ける、居心地の良い部屋作りはご家族、本人、当方が三位一体で本人の想いの実現を、目指している。	本人、家族と職員の三者で居心地良く過ごせるよう工夫している。居室には、習字やイラスト、家族の写真等が飾られてあり、落ち着ける雰囲気である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の希望はその都度確認しながら、対応に配慮している。環境整備は、常常、職員相互のチーム連携を、駆使しながら行なっている。		